

< 編集後記 >

年度が変わってスタートした新しい広報専門委員会が企画から編集までを行った、初のセンターニュースをお届けします。

なにしろ機関広報誌の編集出版に関わるのは初めてのことです。経験豊かな委員がいて熟練した事務局があるので安心して任せていますが、ドキドキものです。出来はいかがでしょうか？

さて今月号は、新しく着任された渡邊センター長からのメッセージをサロンに掲載しました。「情報連携基盤の名に込めた設置の心」のメッセージには、センターの役割をもう一度見直したうえで、中期目標達成に向けてのマイルストーン設定が必要であることを考えさせられます。

センターは、全国共同利用施設と学内情報基盤サービス施設の2つの側面から役割を考える必要があります。学内を見ただけでも、大学情報システムをどのように導入して21世紀にふさわしい情報化を進めるか、広く長い視野で考える必要があります。目標設定は投資と投資効果に連動しているのですが、必ずしも数値的な目標を設定することがよいとは限りません。最近読んだプリニョルフソン教授（MITスローンスクール）の「インタンジブル・アセット」は、つぎのように提唱しています。企業における情報技術（IT）投資と生産性向上には統計的に確かに正の相関があるが、その相関を享受するためには、組織プロセス・構造、スキル・知識、モニタリング・報告・インセンティブ制度などIT以外の資産への投資が補完的に必要である、というものです。IT投資が効果をもたらすように、業務プロセスの改善からシステムをデザインしていく必要があるでしょう。近いところでは、広報の体制も変わりましたので、業務プロセスを見直すチャンスです。

広報のメディアが多様化するなかで、的確かつタイムリーにセンターのサービスや活動の情報を利用者の皆さまにお届けするにはどうすればよいか、広報専門委員会において、検討していきたいと考えています。

忌憚のないアドバイスやご意見をお待ちしています。

(http://www2.itc.nagoya-u.ac.jp/pub/n_youbo.htm)

(K.M.)